

〈幼稚園 表現〉

自分なりの表現を楽しみ、
豊かな感性を養うための援助の工夫
身体表現を通して



浦添市立浦城幼稚園

小橋川 泉美



目 次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す子供像	2
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想	2
VI	研究内容	
1	豊かな感性	3
2	幼児の身体表現活動について	3
3	豊かな表現を育てる為の援助の工夫	4~5
4	身体表現年間指導計画	6~10
VII	保育実践	
1	検証保育の全体計画	11
2	検証保育保育事例1	12
3	検証保育保育事例2	13~17
4	事業仮説の検証	18
VIII	研究の考察	
1	作業仮説(1)の検証	19
2	作業仮説(2)の検証	19~20
3	作業仮説(3)の検証	21
IX	研究の成果と課題	
1	成果	22
2	課題	22
	おわりに	22
	主な参考・引用文献	22



自分なりの表現を楽しみ、豊かな感性を養うための援助の工夫

—— 身体表現を通して ——

浦添市立浦城幼稚園 小橋川泉美

【要約】

本研究は、身体表現活動を通して子ども達が自信を持って自分なりの表現を楽しみ、豊かな感性を養うことを目指し、年間指導計画の作成や援助の工夫を試みたものである。身体表現活動を展開したことで、身体表現活動に意欲的に取り組むようになり、自己表現や他者受容などの豊かな感性が育まれた。

キーワード □豊かな感性 □身体表現 □年間指導計画 □教師の援助

I テーマ設定理由

少子化、核家族化、情報化等により幼児を取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が指摘され、言語表現能力や集団との関わりの中で自己発揮する力が不十分であるといわれている。また様々な体験の不足なども指摘されている。(平成18年度中央教育審議会 幼稚園教育専門部幼稚園教育の現状と課題、改善の方向性(検討素案)より抜粋)

本園の子ども達は元気いっぱい、ほとんどの子が喜んで歌ったり踊ったりする姿が見られるが、動物になりきるなどの自由な表現になると動き方が分からずにとまどう子や、自分の思いを自由に表現できず恥ずかしがっている子も見られる。

7月に幼稚園で行ったアンケートによると「一人で外に遊びに出せない」「周りに遊ぶ友達がいない」などの理由からテレビゲームやおもちゃでの遊びなど兄弟や一人で遊んでいる子どもが61%であった。その結果から幼稚園以外では、家族以外の人との関わりがほとんど見られないことがわかった。

また家族の前で踊りや歌を披露してくれる子どもは、70%でその内容としてはテレビ番組の主題歌や幼稚園で習ったものであった。その結果から安心できる空間である家庭においても、家族の前で踊りや歌などの表現をしていない子が30%もいる実態が見られた。

幼稚園教育要領、「表現の領域」の冒頭には「感

じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」ことが明記されている。また幼児は、「身近な周囲の環境にかかわりながら、感じることを、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ね、感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。教師は幼児が表現する過程を楽しみ、それを重ねていき、その幼児なりの自己表現が豊かになっていくように幼児の心に寄り添いながら適切な援助をすることが大切である」と示されている。

幼児は遊びを通して様々な表現をし、表現をすることで遊びを豊かにする。

これまでの私の保育実践を振り返ると、子ども達の表現しようとする意欲を育てられていたのだろうか。その欲求に対して表現を豊かにする環境としての教材・遊具や用具を準備できていたのだろうか、という反省点がある。

幼児は毎日の生活の中で他から受け入れられる体験を繰り返すことで、自分なりに表現することへの喜びを味わい、いろいろなものへの興味・関心が広がってくる。その体験が、幼児の表現する力を育み、豊かな感性が養われていくと思われる。

そこで、身体表現に関する年間指導計画を作成し、発達に即して活動の内容や援助の工夫を行うことで、自分の思いを表現する楽しさを味わい、さまざまな思いや考えと出会い、豊かな感性が養われるのではないかと考え本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

自分の感じたことや考えたことを、表現することを楽しみ、生き生きと活動する。

III 研究の目標

豊かな感性を養うために、身体表現に関する年間指導計画を作成し、活動内容や援助の工夫を図る。

IV 研究仮説

1 基本仮説

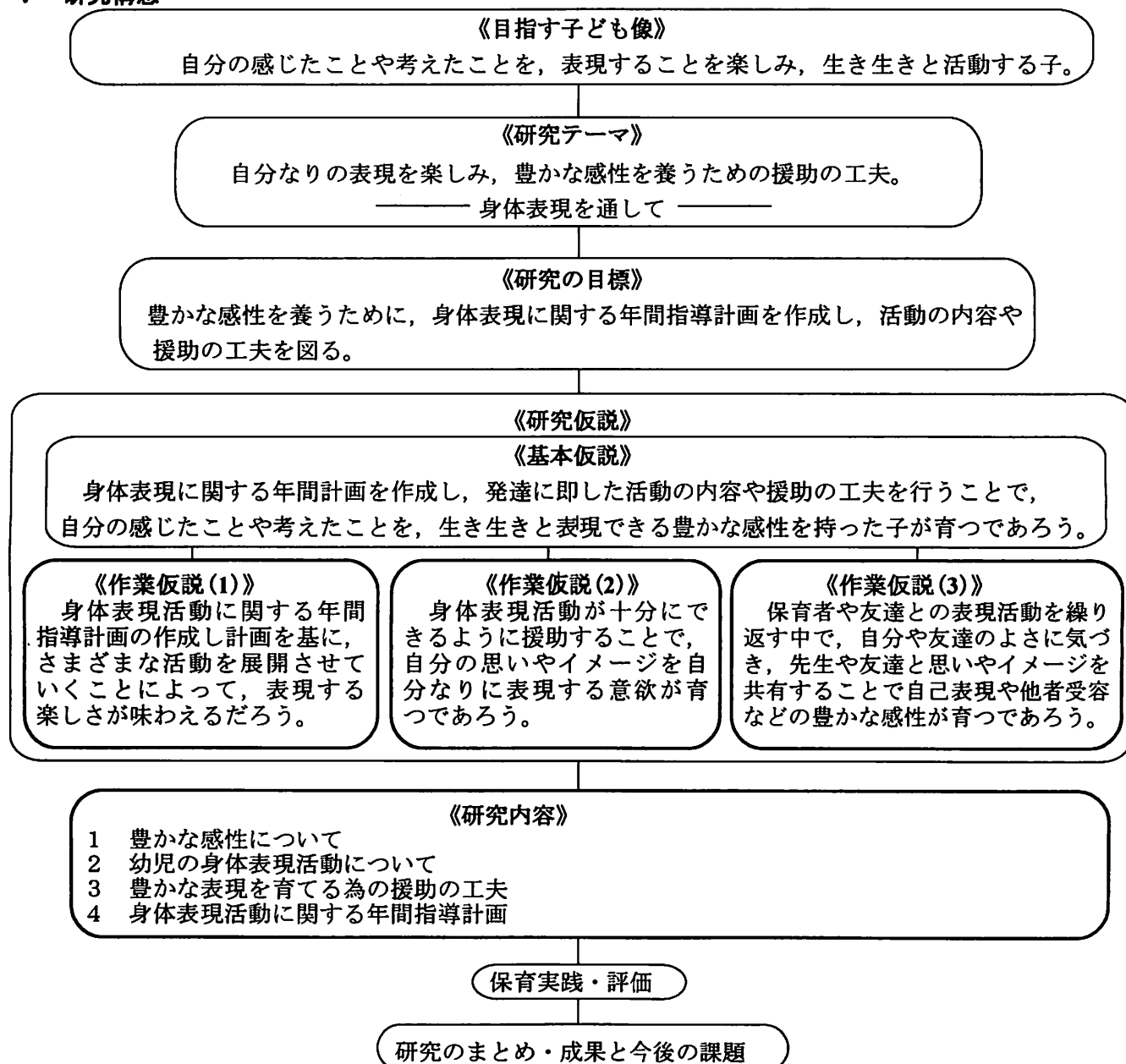
身体表現に関する年間指導計画を作成し、発達に即した活動の内容や援助の工夫を行うことで、自分の感じたことや考えたことを、生き生きと表現できる豊かな感性を持った子が育つであ

ろう。

2 作業仮説

- (1) 身体表現活動に関する年間計画の作成し、計画を基にさまざまな活動を展開させていくことによって表現する楽しさが味わえるだろう。
- (2) 身体表現活動が十分にできるように援助することで、自分の思いやイメージを自分なりに表現する意欲が育つであろう。
- (3) 保育者や友達との表現活動を繰り返す中で、自分や友達によさに気づき、先生や友達と思いやイメージを共有することで自己表現や他者受容などの豊かな感性が育つであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

1 豊かな感性について

(1) 豊かな感性とは

幼稚園要領解説の中で「身近な周囲の環境とかわりながら、そこに限りない不思議さや面白さを見つけ、美しさややさしさなどを感じ、心を動かしている」と明記されている。

感性の育ちの基盤は日常の生活体験である。その日常の中で美しいものを美しいと感じる心や、人と人が直接、顔を合わせ、目をあわせ、触れ合い、表情や身振りや、語調などを通して自分を表し、人の考えを受け止めることができる感じ考える心である。

(2) 豊かな感性を育むとは

指導要領内容の中には「幼児の豊かな感性は幼児が身近な環境と十分にかかわり、そこで心を揺さぶられ、何かを感じ、考えさせられるようなものに出会って感動を得て、その感動を友達や教師と共有し、感じたことをさまざまに表現することによっていっそう磨かれていく」また「日常生活の中で美しいもの、優れたもの、心に残るような出来事に出会い、そこから得た感動をほかの幼児や教師と共有しさまざまに表現することを通して養われること」と明記されている。

幼児は、身近な環境にかかわり、見たり、聞いたり、触ったりするなどの経験をし、そのときの自分の考えやイメージを表現する。その表現を友達や先生と共感し、また他の人の表現を感じることで新しい刺激を受けて自分のイメージや表現を再構築する。

幼児自身の感情が形となって表現され、もう一度その表現されたものを見直す・聞きなおすことを繰り返すことでいろいろなものに興味関心を持ってかわるようになり、感性が豊かになっていく。(図1参照)

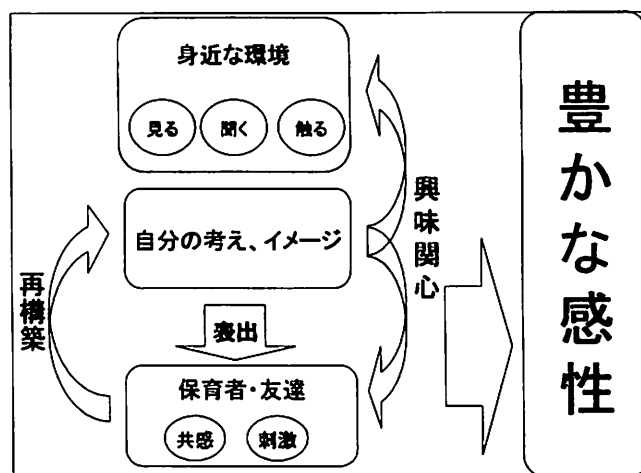


図1 豊かな感性を育む

2 幼児の身体表現活動について

(1) 表現とは

国語辞典によると「心に思うこと、感じることを、色、音、文章、行為、などを形によって表しだすこと」と明記されている。

自分が感じたことや思いなどの心の動きを、自分の声や体の動き等で表すことである。特別の活動に限定されるものではなく、日常生活の中でいつも繰り返し行われている行為であり、表現によって自分の思いを伝えることができる。

このことから表現とは自己を実現する営みであり、自己を再確認する行為であるといえる。

(2) 幼児の表現

幼い子どもにとって、表現は、伝達を交わし合う手段となり、気持ちを放電させる行為になり、又遊びにもなる。

幼児は、遊びや生活の中でさまざまな表現の手段を習得し、そうすることで表現の幅を広げていく。

その子の生涯にわたって必要な基礎的な体験を積んでいく時期である。

表現とは幼児が外界と関わって思い感じたことを表す活動であり、表現を交わし合うことによって人間としての生活を成り立たせ豊かにしていく。そのことから幼児期の子どもたちの感じたり考えたりする行為は、表現に

よって育っていくと捉える。

(3) 身体表現活動の教育的意義

身ぶり表現の意義について広岡キミエによると「①表現意欲の満足(まず感覚的・身体的に自分をださせていく)②表現すると対象が鮮明につかめる、③同時に自己が確かになる、④他者が見える、⑤夢を創る、⑥よく思い、よく表現し、他と交流してこの社会によく生きると言うことである」と述べており、保育の中で身体表現活動を行い多様な表現能力を子どもから引き出し、発揮させ、育てることは創造性、感性、からだや動きの表現力を磨き、コミュニケーションできる力を将来に向けて育てることもである。

(4) 表現を育てる保育とは

子どもの感じる、考える心の表れを受け止めその思いを読み取り、子ども達の表現を豊かに育てその表現を通して感じ考える心の動きを豊かに育てていく事に向けてされる保育である。

(5) 身体表現活動の種類

身体表現活動には下記のようなものがある。

- ① 集団の中で個々に表現をする活動
ア 誰もが同じ動きをすることで、友達と一緒に動くことの楽しさを味わう活動。
イ 自分なりの表現を楽しんだりその表現を工夫したりする活動。
- ② 相手との対応で表現する活動
架空のボールでのキャッチボールなど相手とのイメージを共有してひとつの表現をする活動。
- ③ グループでひとつのものを共同で表現する活動
グループで友達と話し合っって表現を考えたり工夫したりしながら、共通のイメージを持って一つの表現を行う活動。
- ④ 学級全体の共同のイメージの中で個またはグループで役割を分担してする活動
ひとつのテーマで行い、幼児は曲や保育者の声かけで活動の流れをとらえ、その中

で自分が分担した動きをする。行事と結びついていることが多い活動。

3 豊かな表現を育てる為の援助の工夫

豊かな表現を育てるためには、下記のような援助の工夫が考えられる。(図2参照)

(1) 流れ出た思いの受け止め

幼児の気持ちの表れ、表しを丁寧に受け止めていろいろな思いをめぐらせながらできるだけ子どもの本当の気持ちを読み取ろうとすること。

(2) 表現の交わし合い

- ① 誰かに受け止められ、誰かに伝わり、誰かに理解してもらい、誰かと共感しあう、体験を繰り返すことで、幼児の表現は育つのである。
- ② 幼児の本気に見合う丁寧な対応をしてやり、その状況の中でしか生まれない幼児一人一人とのやり取りを心がけることは単なる表現的な状態ではなく、豊かな感性を含んだ心の動きが育つのである。

(3) 表現への共感

保育者や友達と気持ちを通い合わせることでうれしさや心地よさを感じ、新たな気づきや新たな思いを広げあうことに自分の内面が満たされていくのを感じながら、お互いが育ちあう場になる。

(4) 表現への誘いかけ

表現を誘い出そうとするとき、励ましよりも保育者が自分の気持ちや考えを表し伝えることが大切である。

保育者からの表現は、周囲の物事に対する新しい視点、新しい気づきを示し、幼児の心の働きを刺激し、環境に対する新しい関わりのきっかけを作る。なんでもない日常的な環境の中に新鮮な目を向けて自然なときめきの気持ちから自然な表現が生まれるのを見守ることが大切である。

(5) イメージ作りへの援助

具体化されたイメージは幼児の経験をより

どころとして生まれるものである。

具体的なイメージがもてるようにするためには、表現内容となるもの見たり、聞いたり、触れたりする経験の再現。具体的な音の響き、色や形、動き、雰囲気などで思い起こせるような語りかけや問いかけが必要である。

(6) 表現技術の指導

日常生活におけるのびやかさ、表現することに対する安心感を幼児のものにすることが、細かい技術の指導に先立つ最初の援助である。

その上で自分に可能な範囲で、自分の体を自由に動かし、自在に制御し、自分の体に託した表現の可能性を広げられるようにする。

(7) 環境への配慮

- ① 特殊なものを用意するのではなく適度な多様性、可変性、を持つものを用意し、その環境に対して幼児の関わりを豊かに広げ深めるための援助が必要である。
- ② 保育者は、幼児の表現の受け手という環境である。幼児の表現をどのように吸収し、どのように応答するのか。そこから幼児の感じ考える心をどのように広げるのか、そうした意味での環境としての作用に関して保育者は配慮する役割を持っている。
- ③ 幼児に何を育てたいのか照らし合わせた上での紙芝居や絵本、指遊びや、歌などの環境を準備する。
- ④ 表現的な活動の発展を予測した上での材料や道具の準備をする。

(8) 活動の流れの工夫

具体的な幼児の生活する姿から一人ひとりの幼児の興味や関心、発達などを捕らえ、計画を作成する。

幼児の活動に沿った保育の展開においては、幼児の主体性と指導の計画性を関連付けることが重要である。この意味で生活、計画、保育実践、反省や評価、計画の修正、保育実践、という循環の過程が大切である。

(9) 保育者自身の表現的体験の充実

専門的な表現の技能を高めることも大切なことではあるが、幼児への援助を豊かにしようとするれば、保育者が、自分の表現を豊かにし高めようとする過程を体験することが不可欠である。

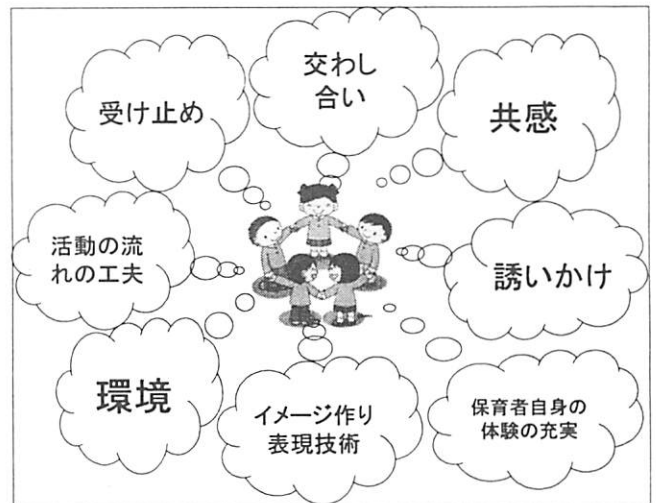


図 2 教師の援助

4 身体表現年間指導計画

上述の研究内容を踏まえ、身体表現年間指導計画を作成した。

I期 (4・5月)				
発達過程	○新しい環境に慣れ、友達関係を広げて自分から遊ぶようになる。	ねらい	○先生の動きを模倣する。 ○リズムに合わせて体を動かす楽しさを味わう。	
活動	<p>○歌を歌う・手遊びをする ○ダンス・体操をする</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">先生のまねっこをしよう</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">リズムに合わせて動いてみよう</div> </div> <p>○保育者の動きやポーズのまねをして体を動かす</p> <p>○いろいろな歩き方 ○リズムに合わせて歩く ○並んで歩く など</p>			
☆教師の援助環境構成	<p>☆安心して園生活を送るために、教師が安心の拠点となり、一人一人の不安や思いを受け止め心を通わせる。</p> <p>☆一人ひとりに声をかけたり、体に触れたりしていくようにしながら安心して身体表現活動ができるようにする。</p> <p>◇自分達で選んでのびのびと遊べるコーナーを設定し、時間も十分にとる。</p> <p>☆やりたいことを見つけ、主体的に遊び始めることができるように、一人一人のしたいことが実現できるように援助する。</p> <p>◇歩く、走るなど幼児がすぐにできるような動きを取り入れたリズム遊びを行い、友達と一緒に表現する楽しさが味わえるようにする。</p> <p>◇幼児がまねをしやすいように体の動きを大きくする。</p>			
教材教具	歌	手遊び	リズム・体操	行事
	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたのおなまえは ・ちょうちょ ・ぶんぶんぶん ・さんぽ ・おかあさん ・赤 青 黄色 ・うさぎさんよくみてね ・遠足はいいな ・小鳥のうた ・ひよこ ・めだかの学校 ・こいのぼり ・いぬのおまわりさん ・がんばりマンのうた ・雨降り ・デンデン虫 ・雨ふりくまの子 	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップ ・お花が笑った ・さあ みんなで ・先生とお友達 ・これくらいの おべんとぼこに ・かたづけマン ・いただきます ・お話ゆびさん ・君とあったね ・むすんでひらいて ・こぶたたぬき きつねねこ ・ひげじいさん ・おちゃらかホイ ・雨まーよー ・じんじん 	<ul style="list-style-type: none"> ・握手で今日は ・はないちもんめ ・手をつなごう ・アブラハムの子 	

Ⅱ期 (6・7・8月)

発達過程	○いろいろな遊びを経験しながら、友達とのかかわりを広げていく。	ねらい	○喜んで自分なりの表現をする楽しさを味わう。 ○気の合う友達とリズムに合わせて体を動かす楽しさを味わう。
------	---------------------------------	-----	---------------------------------------------------------

活動	○歌を歌う・手遊びをする ○ダンス・体操をする	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> プールで泳ごう。海へ行こう (表現遊び) </div>
動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 友達と一緒にリズムにのって動こう </div> ○いろいろな歩き方で歩く ○好きな動物になって歩く ○いろいろな花火 など	○いろいろな泳ぎ方をしてみよう ○川や海の生き物ごっこ

☆教師の援助環境構成

☆集団活動やグループ活動などを多く体験させその中で自分の力が十分に発揮できるような助言や援助をする。

☆個々の幼児理解に努め友達関係が広がっていくような声掛けをする

☆季節の植物や小動物にも興味を持ちそれを自分なりに感じ取り、体で表現したり、歌ったりして楽しめるようにする。

☆子どもたちが何に感動し、関心を持って体験しているのかをよく観察する。

◇ ☆幼児の思いに共感し、素朴な表現を見逃さずに受け止めることで安心して自分なりの表現ができるように援助する。

☆友達の表現にも関心が持てるように援助し、自分と違う表現を認められるようにする。

教材教具	歌	手遊び	リズム・体操	行事
	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるの歌 ・おたまじゃくし ・てるてるぼうず ・素敵なお父さん ・ちいさなしんせつ ・歯を磨きましよう ・時計のうた ・シャボン玉 ・石鹸さん ・みんな大好き ・水あそび ・プールのうた ・たなばた ・せみのうた ・スイカの名産地 ・夏のうた ・ていんさぐぬはな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねずみの歯磨き ・あさがお こりゃこりゃ ・夏だよプールだよ ・手をたたきましよう ・プール大好き ・にじのむこうに ・お星さま ・げんこつやまのため きさん ・幸せなら 手をたたこう ・カステネットで チャチャチャ 	<ul style="list-style-type: none"> ・なべなべそこぬけ ・お船はぎちらこ ・かえるの歌 ・アヒルの行列 ・お馬の親子 ・ヤッホッホ夏休み ・あぶくたった ・でーじぬぐんかん ・うみのぼうけんたい ・気分は★OK 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ開始 ・よい歯の子表彰 ・内科検診 ・父の日 ・プール遊び ・保育参加 ・慰霊の日 ・七夕 ・PTA 作業 ・すいか割り ・園外保育(蟬取り) ・流しそうめん ・夏休み

Ⅲ期 (9・10月)

発達過程	○友達とかかわりながら、自分の考えを伝え合って、共に生活する楽しさを味わうようになる	ねらい	○友達とみんなで表現する楽しさを味わう。 ○感じたことや考えたことを様々な方法で表現する。
------	--------------------------------------------	-----	--------------------------------------------------

活動	○歌を歌う・手遊びをする ○ダンス・体操をする		
動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">みんなで踊ろう</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">動物園へ行こう</div>	
	○みんなで素敵なダンサーズ ○走ってとまってハイポーズ など		○いろいろな動物に変身して遊ぶ。 ○お散歩しよう。ご飯を食べよう。 ダンスをしようなど

☆教師の援助	<p>◇イメージを刺激するような絵本・写真・物語などを提示したり環境構成する。</p> <p>◇身近な自然や動植物などと十分に触れ合い、直接的な体験ができるように環境を工夫する。</p> <p>☆面白かったことや不思議に感じたことを自分なりに探求していけるように、それぞれの発見や驚きを受け止めながらじっくりと関わるができるようにしていく。</p> <p>☆自分達で相談したり、活動を発展させたりすることができるように時間と場所を十分にとる。</p> <p>☆一人ひとりの表現のよさを認め、そのよさを伝えて自信を持たせる。</p> <p>◇☆保育者やクラスの仲間とリズムカルに動いたり、心が弾むようなうたを歌ったりしてみんなで楽しめる時間を持ち、気持ちを合わせて表現することの楽しさを感じられるように援助する。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教材教具	歌	手遊び	リズム・体操	行事
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のうた ・うみ ・畑のポルカ ・アイスクリーム ・うちのおじいちゃんとおばあちゃん ・がんばりじわとニコニコじわ ・あかとんぼ ・とんぼのめがね ・ぞうさん ・ゴリラのうた ・ZOO 	<ul style="list-style-type: none"> ・十五夜さんのもちつき ・キャンプだホイ ・線路は続くよどこまでも ・手のひらを太陽に ・くいしんぼ ・ゴリラのうた ・動物園 ・はなさきやま ・やさいのうた ・こーじゃーうまぐあ ・赤田首里殿内 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型バス ・チェチェコリ ・動物むらのぼんぼこバス ・運動会で行うリズムダンス ・ラジオ体操 ・ゆうびんやさん ・どうぶつ体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・一学期終了式 ・二学期始業式 ・祖父母参観日 ・誕生会 ・視力聴力検査 ・運動会 ・ジャガイモの植え付け ・秋の遠足 ・保育参加 ・団子作り ・発表会 ・お楽しみ会

IV期 (11・12月)

発達過程	○自分の力を発揮しながら、友達と力を合わせて、色々な活動に取り組む。	ね ら い	○イメージを出し合いながら友達のよさや自分のよさに気づき表現する喜びを味わう。 ○友達のイメージに寄り添いながら一緒に表現遊びを楽しむ。
------	------------------------------------	-------------	-------------------------------------------------------------------------

活動	○歌を歌う・手遊びをする ○ダンス・体操をする		
	物語の主人公になろう		
	○バスごっこ ○焼き芋が焼けていく・・・ ○一人ひとりのイメージをつなげてみんなで表現する。		
	みんなで楽しく表現しよう		
動	○劇遊び。オペレッタ ○発表会ごっこ ○友達の表現を見る。		

☆教師の援助◇環境構成	<p>☆個々の考えや工夫を全体の幼児に伝えたり認められるよう橋渡しをしたりする。</p> <p>☆共通のイメージや目的を持って取り組めるように援助したり遊びがより充実して楽しめるように配慮する。</p> <p>☆友達と工夫しイメージを広げながら自分達で活動が進められるよう様々な素材などを準備する。</p> <p>☆季節感を感じられるような体験を取り入れるようにし、幼児の思いを周りの子に伝え教師や友達と思いを共感できるように援助をする。</p> <p>☆いろいろな行事活動が取り上げられる時期なので子どもに負担がかかり過ぎないような展開や取り組ませ方を考えていく。</p>		
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

教具	歌	手遊び	リズム・体操	行事
	<ul style="list-style-type: none"> ・まつぼっくり ・ゆかいな牧場 ・もみじ ・不思議なポケット ・山の音楽家 ・山のワルツ ・焚き火 ・落葉と遊ぼ ・今日もいいこと ・ゆうびんやさん ・あわてんぼうのサンタクロース 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりころころ ・山の音楽家 ・虫の声 ・おもちゃのチャチャチャ 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼き芋グーチャーパー ・カレンダーマーチ ・あぶくたった ・おおかみさん ・創作劇やオペレッタなどの場面に合わせた音楽 ・エイサー ・ジングルベル ・赤鼻のトナカイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会 ・焼き芋パーティー ・就学時健康診断 ・避難訓練 ・感謝の集い ・勤労感謝の日 ・発表会 ・学級懇談会 ・お楽しみ会 ・冬休み
	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタクロース ・発表会に歌う歌 ・お正月 	<ul style="list-style-type: none"> ・花ぬカジマヤー ・発表会で歌う歌 		

V期 (1~3月)

発達過程	<p>○目的を持ち、その実現に向けて、意欲的に遊びをつくったり、生活を進めていくようになる。</p> <p>○入学への喜びや期待をもち、自分から進んで何でもしようとする。</p>	ねらい	<p>○友達とお互に考えを出し合い工夫しながら一緒に表現す楽しさを味わう。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------	-----	-------------------------------------------

活動	<p>○歌を歌う・手遊びをする ○ダンス・体操をする</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">友達と一緒にいきり遊び</p> <p>○グループでこまや凧になってみよう など</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">友達といっしょにダイナミックな表現遊び</p> <p>○見えないボールでキャッチボール</p> <p>○一日の生活をふりかえってみよう など</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

☆教師の援助環境構成	<p>◇グループ同士が交流する場面を設定し、お互いが刺激を受けながら活動が展開できるようにする。</p> <p>☆一人ひとりが表現を認め合い、喜びや自信につながるように援助する。</p> <p>☆一人ひとりが持てる力を十分に発揮して、みんなの力でやりきった達成感や満足感を味わえるように援助する。</p> <p>☆クラス全体やグループで意欲を持って取り組み、自分達で遊びを進めたり、発展させたりする場を用意する。</p> <p>☆友達によさやがんばっているところを認め合えるような場の設置や、雰囲気作りをする。</p> <p>☆今まで経験したダンスや体操などがいつでも行えるように環境を整える。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	歌	手遊び	リズム・体操		
教材教具	<ul style="list-style-type: none"> ・いー正月やー ・たこのうた ・五十音のうた ・かのつくもの ・やぎさんゆうびん ・ムーチーのうた ・豆まき ・はる ・数字のうた ・嬉しいひな祭り ・やぎさんゆうびん ・素敵な友達 ・思い出のアルバム ・仲間達きらきら ・卒園の歌声 ・一年生になったら ・どきどきドン一年生 	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーライスのうた ・チューリップが芽をだした ・ごんべえさんのあかちゃん ・コンコンコンクシヤンの歌 ・はなさきやま ・ことしのぼたん 	<ul style="list-style-type: none"> ・十二支のうた ・あんたがったどこさ ・鬼のパンツ ・1から10まね ・とにかくにんじん ・ダンスは心のエネルギー ・言葉でアクション ・ディズニー体操 	行事	<ul style="list-style-type: none"> ・正月 ・身体測定 ・誕生会 ・保育参観 ・ムーチー作り ・学芸会見学 ・進入園児体験入園 ・小学校入学説明会 ・お別れ遠足 ・カレーパーティー ・ひな祭りコンサート ・お別れ会 ・親子清掃 ・幼稚園終了式

Ⅶ 保育実践

1 検証保育の全体計画

検証保育の実際に当たり、下記のような全体計画を立てた。

月 日	題材名	ね ら い	活 動 内 容	
10月 30日	「リズムに合わせて歩いてみよう」 「いろんな動物になってみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせていろいろな動きをすることを楽しむ。 ・自分なりのイメージを広げながら表現を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて歩いたり、スキップをする。 ・動物園にいた動物の動きを模倣する ・動物の様子を思い浮かべながら自分が思い描く動物の表現をする。 	保育事例 1
11月 4日 6日	「お話を作ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に登場人物がどのように動いていくのかイメージを共有しながら話作りを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを先生や友達に伝える。 ・グループで話し合いながら話作りをする。 	
11月 7日	「物語に登場する動物になりきって遊ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな動物の様子を思い浮かべながら、自分なりの表現を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の表現 (猫になって散歩、リュックを持ってピクニックに行く。ウサギになりはねて遊ぶ等) ・船の表現 (2人から10人まで少しづつ人数を増やしていき船を作って遊ぶ) 	
11月 11日 14日	「物語の世界を皆で表現しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの子とイメージを共有しながら表現遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の身体表現を考える。 (猫の動き、ウサギの動き) 	
11月 17日 ～ 12月 5日	「発表会に向けて」	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人に見てもらうことを意識して表現を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・前と後ろがあることを意識して身体表現活動をする。 ・物語の登場人物になりきって動く 	
12月 6日	「発表しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で考えた物語を劇遊びで発表する。 	
12月 11日 (本時)	「友達と一緒に話の主人公になろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達とイメージを共有しながら自分なりの表現遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて表現して見せたり、友達の表現を見る。 	
12月 中旬	「友達と一緒に話の主人公になろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に話の流れに沿って自分なりの表現遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を展開させながら友達と一緒に身体表現遊びをすることを楽しむ。 	

2 検証保育 保育事例1

(1) 主題名 「リズムに合わせて遊ぼう」

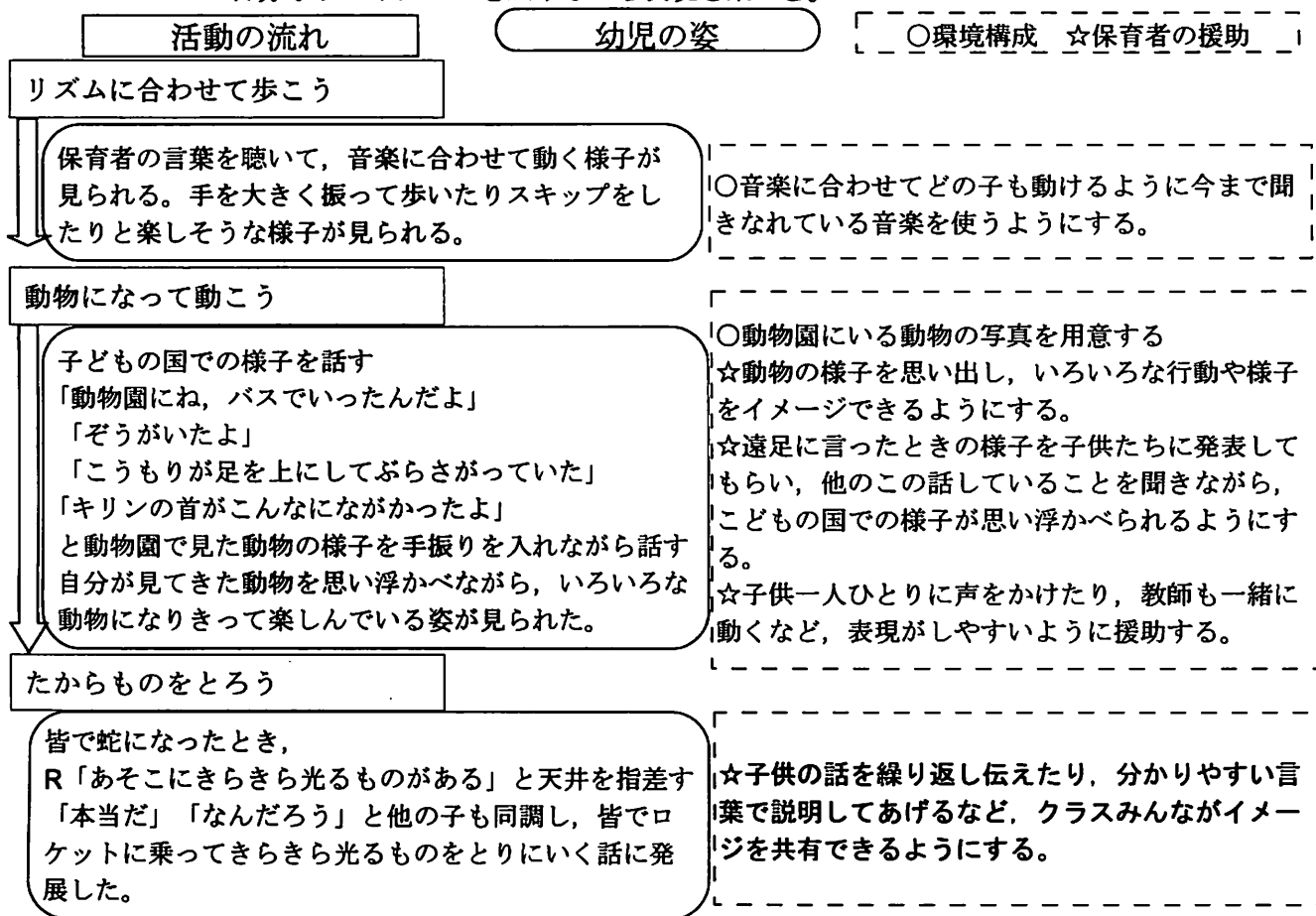
(2) 題材として取り上げた理由

歌を歌ったり、ダンスをすることは好きであるが自分の表現を求められると立ち止まってしまったり、やりたがらない子が見られた。そこで歩く、走るなどの子も動きやすい活動から入ることで友達と一緒に体を動かすことの楽しさを知り、自信を持って自分なりの表現ができるようになるのではないかと思い題材として取り上げた。

(3) 活動の展開

ねらい：リズムに合わせていろいろな動きをすることを楽しむ。

自分なりのイメージを広げながら表現を楽しむ。



【考察】

- どの子も参加しやすいように歩く走るなど分かりやすい動きから取り入れたことで、動きに参加しやすくなりみんな一緒にリズムに合わせて動くことができた。
- 動物になろうという秋の遠足での体験を元に表現活動をしたことでクラスの子がイメージを共有することができ、共通のテーマの下に表現遊びができた。
- 幼児の興味関心によって環境との関わりも違ってくる。そのことが表現をするときにも表れてきており、動物の表現をするときに動物をよく見ていた子は、のびのびと表現していたが、動物に対して興味がない子はどう動いたらいいかわからない様子であった。
「どんなどころにいたの」「手の形は」等具体的にイメージできるような声かけ等の援助をすることによって自分なりのイメージをつかみ表現できるようになったが、表現に移るまでに時間がかかった。「熊が何か話しているみたいよ」など声をかけながら観察させるなど環境への関わらせ方も考える必要性を感じた。

3 検証保育 保育事例2

(1) 主題名

「友達と一緒に表現することを楽しもう」

(2) 取り上げる題材名

「友達と一緒に話の主人公になろう」

(3) 主題設定の理由

【5歳児の発達の特徴】

日常生活のうえでの基本的な生活習慣は、ほとんど自立し、自分自身でできるようになりそばで見ているだけでも危なげなくなる。同じ一つの目的に向かって数人がまとまって活動するようになり、集団やグループ活動の中で役割の分担をし、決まりを守ることの必要性、責任感を身につけ、仲間の一員としての自覚や自信を持つようになる。想像力を育み作り上げる達成感、最後までやりきる喜びを感じることができる一方「大人に合わせよう」「いい子でいよう」として、自分の心を素直に表現しなくなり始める時期でもある。

生活経験が広がると同時に身の回りの自然事象や物事に対しての興味や関心も深まり、知的好奇心や探究心が深まりいろいろな表現能力を身につけていく。自分自身の生活経験を手がかりにして、さまざまなイメージを形成し、それによって物事を受け止め理解したり考えたりする時期である。

以上のことから保育者や友達と一緒に表現を楽しむことが、豊かな表現を育て豊かな感性を養ううえで大切であろうと考える。

【クラスの幼児の様子】

歌を歌ったり、ダンスをすることが好きで曲を流してあげると楽しんでいる姿が見られる反面ダンスのふりが友達と違っていると踊るのをやめてしまったり、自分の表現を求められるとどう表現したらいいのか立ち止まってしまう子や、恥ずかしさからやりたがらなかったり、自信を持って動きが小さくなる子や、友達や保育者と目が合うと動きが止ま

ってしまう子も見られた。

12月の発表会に向けて保育者や友達と一緒に物語作りを行う中で、自分達で動きを考えたり、友達のイメージや思いを受けとめることができるようになってきた。身体表現遊びを嫌がる子はほとんど見られなくなり、発表会では全員が、自信を持って舞台上に立つ姿が見られた。

【題材として取り上げた理由・指導方法】

クラスの子どもが興味のある冒険にいく話を内容にクラスで人気のある11匹の猫の話を題材にすることで友達や保育者と一緒に物語を作ることを楽しみ、その物語の主人公になることで友達と共通のイメージを持って表現遊びをすることの楽しさや、心を通わせながら表現していく楽しさを感じ取れるのではないかと考えた。また他の子の表現を見たり、自分の表現を見せたりすることで、自分や友達のよさに気づき、自信を持って表現できるようになるのではないかと考え題材を取り上げた。

そこで、お互いに表現を見せ合う場を設け、イメージが豊かになるような声かけや子どものイメージに沿うような環境としての音楽やリズムを取り入れることでより自分なりの表現を楽しめるようにしていきたいと考える。

(4) 本時のねらい

- ① 友達と一緒に話の流れに沿って自分なりの表現を楽しむ。
- ② 自分の表現を見てもらったり、友達の表現を見ることで自分や友達のよさに気付く。

(5) 保育仮説

- ① 身体表現活動が楽しめるように援助することで自信を持って表現できるようになるであろう。
- ② お互いに表現を見せ合う場を設け、保育者に自分なりの表現を受け入れてもらう経験を通して自分や友達のよさに気づき表現が豊かになるであろう。

(6) 本時までの取り組み (保育の展開)

活動の流れ	幼児の姿	☆教師の援助 ○環境構成
<p>11月 4・6日 お話をしよう</p>	<p>全体的話し合いの場面で 「おなかのすいた猫は何を食べに行こうか」「魚を食べに」 「どうやって行くの」「ふねにのって」等の言葉が 「車に乗ってね、ずっと走っていったらね、大きなハンバーグがあつてね、それーとって食べた」等の文章になってきた。 グループで相談してひとつの話を考える。(図3)(図4) はじめはそれぞれが好きなものを言い合っていたが、誰が出てきてそれからどこに言ったの」などと具体的にイメージできるように声かけをするとグループで話を一つにまとめながら話づくりをする様子が見られるようになった。 「せんせい、さめをやってみたい。」 「うさぎになって踊り踊ったり遊んだりする」 等身体表現遊びへの意欲も見られる。</p>	<p>○物語がイメージしやすいようにペープサートを用意する。 ☆何名か前に出て台詞や動きをしてもらい何をするのかみんながイメージできるようにする。 ☆子どもが話したものをつなげて文章にしてあげたりと話の内容を確認しながら他の子にも伝わるようにする。 ☆グループで話し合う中で友達と一緒に話し合っ一つの話をつくる楽しさや他の人の思いを受け入れながら進める大切さがわかるように援助する。 ☆子供達の様子を見守り、「どれからどうしたの」などと話がつながられるように援助をしながら、友達と一緒に物語を作り上げていくことを楽しめるようにする。 ☆子どもの思いを受け止め、認めてあげたり思いを友達にも伝えてあげる中で、安心して自分の考えを出せるように援助する。</p>

子ども達がグループで考えた話

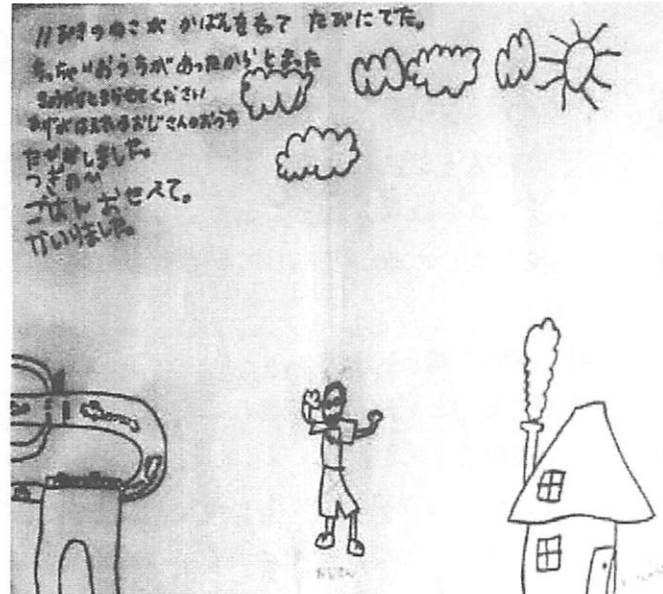


図3 ご飯をもらった話

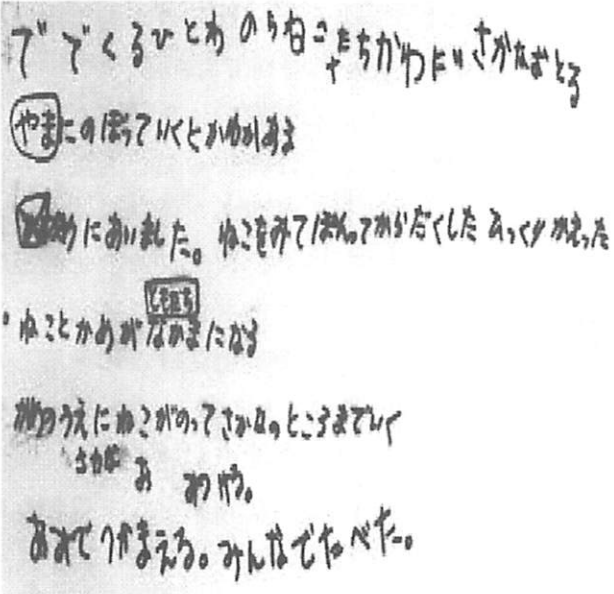


図4 網で魚を取る話

クラス全体でまとめた話

おなかのすいた猫はみんなで食べ物を探しに旅に行くことにしました。途中でウサギにあって一緒にいくことになりました。船に乗って海を渡っていると、さめが襲ってきました。ウサギと猫は大きな網を使ってさめを捕まえました。すると さめは「ごめんなさい」と謝って遠い島までみんなを案内することになりました。島に着いて食べ物を探しているとお化けが出て追いかけられました。ライトを当てると意地悪なお化けがやさしいお化けに変身して宝物の箱があると教えてくれました。なぞなぞをといて宝の箱を開けると中にはカレーライスが入っていて、みんなでおなかが大きく膨れるまでカレーを食べました。

11月7日
物語に登場する動物になりきって遊ぼう

猫がリュックサックを背負って旅に出る。(図5)
ウサギになって遊ぶ。猫とウサギがともだちになる。等物語に出てくる動物になりきって身体表現を行う。

「背中がまるくなってるねこ」「どらねこ大将だ」

と腰に手を当てて歩く子等それぞれに登場人物をイメージしながら表現している姿が見られた。

「猫が、旅に出るところが面白かった」

「ウサギと猫が友達になってよかった」

「海に出るところがおもしろかった」

11月11日14日
物語の世界を皆で表現しよう

自分が好きな登場人物になって物語を進める。
さめが出てくる場面で猫やウサギが本当に怖かったり、さめ役の子もさめになりきって表現する姿が見られた。(図6)

役に入り込んでアドリブの台詞を言う子も見られるなど、子供達なりに表現遊びを楽しめたようである。

子供達の感想としては

「さめが出てくるところは本当に怖かった」

「さめを捕まえるところが面白かった」

「やさしいさめになってほっとした」

等の声が聞かれた。

11月17日
～12月5日
発表会に向けて

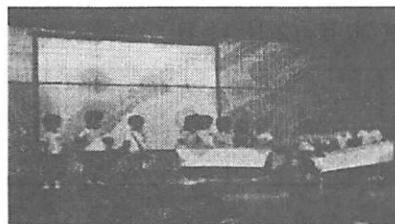


図7 練習の様子

さらに話を発展させて具体的な動きや台詞を足すなど物語の再構成をする。

自分の好きな役を選びその役になりきって練習を行う

練習を重ねるごとに、自分の動きに自信を持てるようになり大きな声で歌ったり踊ったり、また役になりきって動く様子も見られるようになってきた。

発表することに対して意識が持てるようになり、前後や、自分の立ち位置なども意識して表現するようになってきた。

発表会2日前には「先生が教えなくても自分達だけでもできるよ」との言葉が出てくるなど自信を持って練習している様子が見られる。(図7)

○いつでも物語りがイメージできるように、物語の内容を紙に書いて掲示しておく。

○イメージに合った曲を精選する。

☆自分の思い描く物語の世界を表現できるように、「今猫が、嬉しそうにあるいているね」などと具体的に声を掛ける。

☆保育者も一緒に身体表現遊びをし、どの子も楽しめるように援助する。



図5 旅に出よう



図6 さめだぞー

☆台詞を入れながらより物語に沿った表現遊びを楽しんでほしい。

☆自分なりの動物の表現を自信を持ってやってほしい。

☆自信が持てるように一人ひとりの表現に目をむけ褒めたり励ましたりしながら自分なりの表現ができるようにする。

☆「さめがこわいかおしてやってきたよ」などイメージが取りやすいように一つ一つを具体的に話をするようにする。

☆友達の表現にも目をむけ、いろいろな表現の仕方があることにきずき受け入れられるように援助する。

☆自分のやりたい役を選択できるように話の内容を繰り返し読み聞かせる。

○いつでも物語の内容を確認できるように、台本を準備する。

☆登場人物の姿をイメージさせ、役になりきって体を動かせるように援助する。

☆保護者や友達などいろいろな人が見に来るものであることを伝え表現を見せる方向を意識させるようにする。

☆役になりきって表現している様子を皆の前で褒め友達の様子に気付いたり、自身を持って表現できるようにする。

☆楽しんで劇遊びができるように子どものペースに合わせて練習する。

12月6日
夢いっぱい発表会

緊張からか身振りが小さくなっている子もいたがそれぞれの役を堂々と表現している姿が見られた。
(図8・図9)

どの子も保護者や祖父母に褒めてもらった様子が見られた。

「お母さんに褒めてもらった」

「大きな声で上手だったっていわれたよ」

「とても楽しかった」

と発表会后にたくさん褒めてもらった子が多くとても生き生きとした表情をしている。

【保護者の感想】

楽しそうに堂々としている姿を見てすごいなと思いました。

今まで本番前まで嫌がって泣いていた子が、泣かずに楽しんでやっている姿を見て、ものすごく成長したと思います。

楽しそうにやっていたのでよかったです。(家でも張り切って練習していました) 又一人一人が楽しく演じていたのがよかったです。

楽しそうにダンスをしている姿がとってもよかったです。台詞を言うときも、ちょっとテレながらもニコニコして話しているところがかわいらしかった。

○衣装や小道具など忘れ物がないように確認をする
☆今までがんばってきたことを認め、自信を持って発表できるように声かけをする。

☆保護者や兄弟などみんなが見に来てくれることを伝え、意欲を持って発表会に取り組めるようにする。

☆出番を待つときや終わって後のマナーが守れるように、約束事を確認する。

☆発表会でのすがたを振り返り、子供達一人ひとりを認めてあげ、次への活動の意欲につなげられるようにする。

☆どんなところが楽しかったかがんばったところ、よかったところをみんなで発表しあう場を設ける。



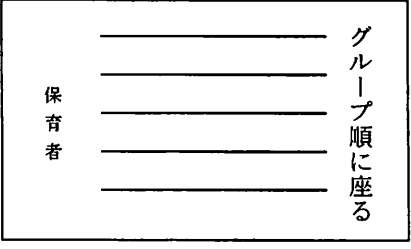
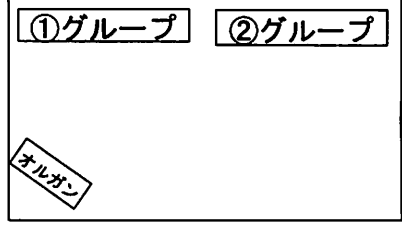
図8 やさしくなあれ



図9 海賊と勝負だ

(7) 検証保育指導案・・・本時

日時	平成20年12月11日		
対象	やま組 (5歳児) 男児14人 女児14人 計28人	主題	友達と一緒に話の主人公になろう
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に話の流れに沿って自分なりの表現を楽しむ。 ・自分の表現を見てもらったり、友達の表現を見ることで自分や友達のよさにきづく。 		
検証仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現活動が楽しめるように援助することで自信を持って表現するようになるであろう ・お互いに表現を見せ合う場を設け、保育者や友達に自分なりの表現を受け入れてもらう経験を通して、自分や友達のよさにきづき表現が豊かになるであろう。 		
前日までの子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会に向けて、自分達で物語を作り劇遊びを展開させてきた。自分の役になりきり、大きな声で台詞を言ったり、踊りを踊ったりと楽しんでいる姿が見られる。「どんな動きをするの」との保育者の声掛けに対しても積極的に動きをやって見せる子も増えてきている。 ・「みんなでピクニックに行くんだよね」「ゆうえんちに行く」と表現遊びを行うことを楽しみにしている姿が見られるようになってきている。 ・決まったことやゆっくり確認したことに対しては自分のイメージを持って表現遊びに参加するが、場面の変化や、イメージの変化に対して受け入れるまでに時間がかかる子も見られる。 		

時 間	活動の流れ	○環境構成 ☆教師の援助
9:00	<p>○集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに座る ・保育者の話を聞く ・今日の活動について話し合う <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手順</p> <p>①好きなグループに分かれる</p> <p>②友達や保育者の言葉を聞いて表現遊びを楽しむ</p> <p>③友達の表現遊びの様子を見る</p> <p>④みんなで集まって今日の感想などを話し合う。</p> </div>	<p>☆前回の表現遊びを振り返りながら、子ども達のイメージを膨らませ、今日の活動に期待を持たせる</p> <p>☆今日の活動について話をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>☆子どもがわかりやすいように、座る位置を確認する。</p>
9:10	<p>○表現するグループに分かれて、表現活動ができるように移動する</p> <p>発表会で行った劇の続きの話を保育者の声掛けや音楽に合わせて身体表現する。</p> <p>○音楽に合わせて表現遊びをする。</p> <p>みんなでピクニックに行こう バスに乗って出発 海に着き船に乗っていく 2人組になり大きな波を超えたり進んでいったりする。 およぐ。 砂浜で砂遊びをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>☆子ども達から出てきたイメージをを組み立ててあげ、どの子も理解ができるようなストーリーの展開ができるようにする。</p> <p>☆「次はどこに行くの」等と声をかけ子ども達が具体的にイメージが持てるようにする</p> <p>☆「どんな動きをしているかな」等と見ている子に対しても声をかけ友達の身体表現に興味・関心がもてるようにする。</p> <p>☆いろいろな表現をしている子どもの姿を取り上げ、自信を持って表現遊びができるように援助する。</p>
9:45	<p>花畑を見つける。 花畑で遊ぶ。</p>	<p>○子ども達の姿に合わせて話の内容やリズムや音楽などの環境を再構成する。</p> <p>☆身体表現に取り組めない幼児には個別にかかわりその思いを受け止めながら喜んで活動に取り組めるように援助する。</p> <p>☆子ども達が進んで身体表現遊びができるように、保育者も一緒に表現遊びを楽しむ。</p>
10:00	<p>○集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに座る ・保育者の話を聞く。 ・今日の活動の感想について話し合う。 	<p>☆今日の活動での楽しかったことや気づいたことをみんなで話し合うことで自分や友達の表現を認め合い、次の活動への期待と意欲を高める。</p>
評価の視点	<p>○幼児が身体表現遊びを楽しんでいたか。</p> <p>○友達と一緒に同じイメージを持って表現遊びを楽しんでいたか。</p> <p>○友達の表現を見たり、自分の表現を見てもらい友達のよさや自分のよさを感じ取ることができたか。</p>	

4 保育仮説の検証

(1) 保育仮説①の検証

身体表現活動が楽しめるように援助することで自信を持って表現できるようになるであろう

【結果】

① 活動時の子ども達の様子

- 保育者の声にあわせて蝶になったり、「空を越えて雲の上まで伸びているぞー」「ぐぐぐーん」などといいながら手を思いっきり上に伸ばしたり、自分なりの表現を楽しそうに行う姿が見られた。(図10)
- クラス全体の前でも積極的に自分で考えた表現を発表したいと手を上げる子が見られ自分の表現に自信を持っている様子が見られた。



図10 蝶になりきって表現遊びを楽しんでいる様子

② 幼児の感想より

- ・「みんなでお花畑にいけて楽しかった」
- ・「バスに乗って、早くなったり遅くなったりしたのが楽しかった」

【考察】

幼児が身体表現活動を楽しめるように、環境構成や援助の工夫を行ったことで、幼児は音楽に合わせて積極的に体を動かして表現遊びに参加するようになったと考える。また自分のイメージを豊かにし、そのイメージどおりに身体表現することを繰り返す中で自分なりの表現をすることに自信を持ち、のびのびと表現できたのではないかと考える。

(2) 保育仮説②の検証

お互いに表現を見せ合う場を設け、保育者や友達に自分なりの表現を受け入れてもらう経験を通して、自分や友達のよさに気づき表現が豊かになるであろう

【結果】

① 活動時の子ども達の様子

- 友達が表現している様子を見ながら声をかけたり、真似をして体を動かす姿が見られた。
- 「○○さんと一緒にやった蛇が上手にできた」「大きいおにぎり食べるときに口をおおきくあけてたべたよ」等自分の表現や友達の表現を認める言葉が出てきた。
- 砂浜で砂遊びの表現をするときに友達と「何をつくるか」「どんな形にするのか」など話し合いながら表現する姿が見られた。
- 友達と一緒に身体表現遊びをした様子を自信を持って発表する姿が見られた。

(図11)



図11 発表の様子

【考察】

友達と一緒に表現したことを積極的に発表していることから、表現したことに対して自信をもち自分や友達のよさを認めている事が伺える。

砂遊びの表現の場面で友達と一緒に表現の方法について話し合いながら活動する様子が見られたことからいろんな表現方法を模索して表現が豊かになるような活動が行えたのではないかと考える。

Ⅷ 研究の考察

1 作業仮説（1）の検証

身体表現活動に関する年間計画の作成し、計画を基に、さまざまな活動を展開させていくことによって、表現する楽しさが味わえるだろう

(1) 手立て

- ① どのような表現活動があるのか文献を調べたり、行事などと照らし合わせながら、幼稚園での生活に沿った年間指導計画を作成した。
- ② 保育実践では指導計画の中から動物になって歩いてみよう（リトミック）と劇遊び（物語の主人公になって表現しよう）を取り上げ活動を展開した。

(2) 結果

- ① 検証保育（実践1より）10月
 - 動き方が分からない子や、身体表現活動に抵抗を示す子が、無理なく体を動かせるように、歩く、走るなど簡単な動作から行うことで、みんなが安心して友達と一緒に動くことができた。（図12）



図12 友達と一緒に歩く

- 子どもの感想

「歩くのが楽しかった」
「はしれてよかった」
「みんなで宝物が取れたのが楽しかった」
「又、やりたい」

② 検証保育（実践2より）11月～12月

- みんなで物語の主人公になりきって動いている姿が、見られ子どもたちの表情もニコニコとして楽しそうな様子が見られた。
- 「次は、いつやるの」と身体表現活動を

心待ちにしている様子が見られた。

③ R男の育ち

- 机の下に隠れ耳を押さえるなど身体表現活動を嫌がる様子が見られたが、身体表現活動を何度も経験していく中で友達がやっていることに興味を示し、自分から進んで活動に参加するよう「次はいつやるの」と表現遊びを心待ちにしている様子も見られるようになった。
- ④ 検証保育前後の幼児への聞き取り調査よりクラスの幼児28名への聞き取り調査で「身体表現遊びは楽しかったか」の質問に対して「楽しかった」と答えた幼児が71%から100%に伸びている。（図13）

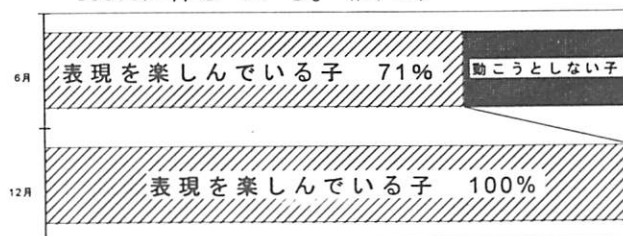


図13 身体表現遊びが楽しかったか

(3) 考察

身体表現遊びの年間計画作成を行い、恥ずかしがる子や、動き方が分からない子も取り組みやすいように簡単な動きから取り組んでいった。その結果楽しそうに表現遊びに参加している姿が見られ、また幼児の感想の中にも「楽しかった」「もっとやりたい」などの発言が聞かれるようになっていく。さらに聞き取り調査の結果から、幼児が表現遊びの楽しさを味わえるようになったと思われる。

2 作業仮説（2）の検証

身体表現活動が十分にできるように援助することで、自分の思いやイメージを自分なりに表現する意欲が育つであろう

(1) 手立て

- ① 幼児一人ひとりのイメージを引き出し、具体的な身体表現活動として提示するためのヒ

ントやアイデアの提供。

- ② 幼児の興味に沿った題材の選定
- ③ 幼児一人一人のさまざまな価値観を受け止め幼児と同じ目線で向き合い、「楽しかった」「よかった」などの満足感が得られるような援助。

(2) 結果

① 検証保育より

- はじめは友達の動きをじっと見たり保育者の指示をじっと待っている子も見られたが、身体表現活動を何度か経験するうちに、自分なりの表現を楽しんでいる様子が見られるようになった。(図14)
- 物語に出てくる登場人物のポーズ作りを個々に発表してもらうと、一人ひとり違った表現をする姿が見られた。
- 即興で物語を進めていく表現活動の中で「遠足に行こう」「ウサギが出てきて」と自分のイメージを伝えたり、クラスの幼児の前で自信を持って自分の身体表現を発表するようになった。

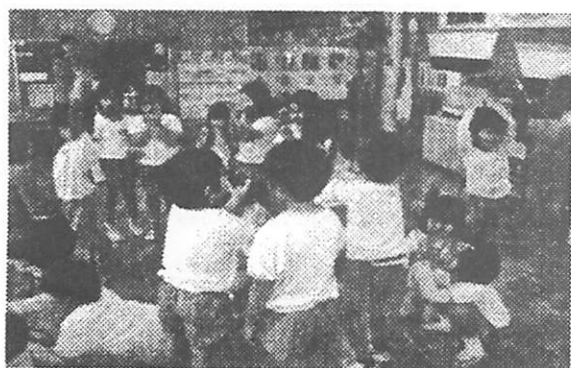


図14 自分なりの表現を楽しむ

② R女の育ち

- 身体表現活動を始めると座って他の子の様子を傍観するなどほとんど体を動かさない姿が多かった。身体表現活動を行う中で保育者に自分の表現を受け入れてもらう経験を繰り返したことで自信を持って身体表現をするようになってきた。次第に積極的に身体表現活動に参加するようになり、他の子を引っ張っていく存在になっている。

③ 親へのアンケート調査より

家族の前で自分の知っている歌やダンスを披露してくれますか。という質問に対し、「披露する」と答えた回答が72%から92%に増えた(図15)

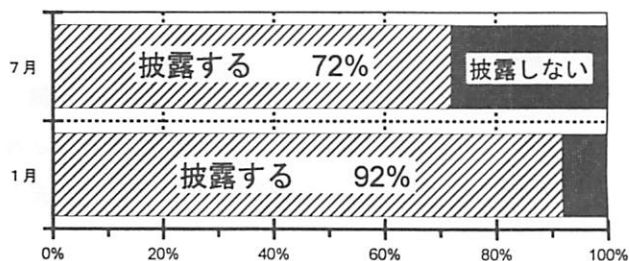


図15 親へのアンケート

④ 検証保育後の保護者の言葉より

- ・「○○役さんはこーしてこんなダンスするんだよ」とどんな役も覚えるほど嬉しそうに楽しく話してくれました。
- ・練習の様子を話してくれたり、動きをやって見せてくれてとても張り切っている様子でした。
- ・家族みんながびっくりするほど、恥ずかしがることもなく、堂々と発表している姿を見て成長しているなど感じました。
- ・以前は人前で歌を歌ったり踊ったりが苦手でしたが、発表会の練習ぐらいから、自分から進んでリズムを取ったり、表現するようになりました。

(3) 考察

幼児が興味に沿った題材を用意し、一人ひとりの素朴な表現も受け入れてあげるなどの援助をすることで、自分の表現を保育者や友達に受け入れてもらう嬉しさを感じることができた。又自分の思いやイメージを自分なりに表現する意欲が育ったと思われる。

自分なりの表現を楽しんでいる姿や、家族で歌やダンスを披露してくれている子が増えていること・保護者の言葉から、身体表現することに対する意欲が育ってきていると思われる。

3 作業仮説(3)の検証

《作業仮説(3)》

保育者や友達との表現活動を繰り返す中で、自分や友達のよさに気づき、先生や友達と思いやイメージを共有することで自己表現や他者受容などの豊かな感性が育つであろう

(1) 手立て

① 動きに沿った言葉や曲を与えたり、いろいろな表現方法があることに気づかせるような声かけなど表現を深めていくための援助。

② 友達の表現を見たり、自分の表現を見せる等、表現を見せ合う場の設定。

③ 物語作りの題材の提供しグループやクラス全体で物語を作っていく中でイメージの共有化を図る。

ア、物語に出てくる登場人物のペープサートを作成し、いつでも遊べるようにする。

イ、話の内容をいつでも確認できるようにみんなで作った話を掲示する。

ウ、いろいろな役を体験できるような助言。

(2) 結果

① 検証保育より

○ 登場人物や行動を確認しながら話作りをしたことで、共通のイメージを持って表現できるようになり役になりきって物語を進めていけるようになった。

○ 発表会でいろいろな人に自分の発表を見てもらい、認めてもらったことで、自分の発表に対しても自信を持ち表現の仕方や動きにも工夫が見られた。

○ グループでの表現活動をするときに自分の思いを通すだけでなく友達の意見も聞き入れながら話作りをするようになり、友達の表現を取り入れながら活動をする姿が見られるようになった。(図16)

○ 身体表現を一人ずつ発表した場面で「おーかっこいい」「顔まで変わってる」「いろんなのがいるねー」等の言葉が聞かれた。

又「こんなんでもいいのかー」と自信を得た言葉が聞かれた。



図16 友達と一緒に表現する

② 検証保育後の保護者の言葉より

- ・さめだから猫やウサギよりかっこよく見えるように、身振り手振りを大きくするなど、動きを考えて練習していました。
- ・宮古島に行くというのは自分が発表したからだといっていました。とても嬉しかったみたいです。
- ・自分達で話を考えたんだよ。さめも出てくるんだよ自分はウサギやるんだよと話をしてくれました。
- ・本当は猫をやりたかったけどさめをやる子がいなかったから自分はさめをすることにしました。やりたいことを譲って別の役にまわることができるようになったところが、成長したなと思って嬉しかったです。

(3) 考察

幼児の興味、関心に沿って題材を選択したことで、イメージがしやすくなり、登場人物の動きを考え、体の動きを工夫する姿が見られるようになったそのことから、豊かな感性が育っていると思われる。

グループ活動や、発表など表現を見せ合う場を設定したことで、友達のことを気にかけている姿や、発言、アンケート結果から、友達の思いに気づき、自分の思いを受け入れてもらうことの心地よさを感じる等の他者理解・他者受容、の心が育ってきたと考える。

Ⅸ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 身体表現活動に関する年間指導計画を作成し、活動を展開したことで身体表現活動に喜んで参加するようになり楽しむことができた。
- (2) 身体表現活動が十分にできるように援助することで、自分の表現に自信を持ち自分の思いやイメージを自分なりに表現する意欲が出てきた。
- (3) 保育者や友達と表現活動を展開していく中で自分や友達によさに気づき、先生や友達と思いやイメージを共有することができるように援助の工夫をしたことで、自分を表し、人の考えを受け入れることができる自己表現や他者受容などの豊かな感性を育むことができた。

2 課題

- (1) 身体表現活動年間計画の更なる工夫改善
- (2) 感動体験が味わえるような環境構成や援助の工夫
- (3) 幼児一人一人の行動理解に基づいた個に応じた援助の工夫
- (4) 保育者自身の感性の向上

おわりに

子どもたちの表現を伸ばし、自分の思いを生き生きと表せる子になってほしいという思いで研究を進めてきました。その中で人が、事物・事象と直接関わることの大切さや、自分を表現し、人の

表現を受け止めることの大切さを改めて子どもたちに教えられました。

半年間という研究の中で学んだことや発見したことをこれからの保育に活かし深めていきたいと思えます。

研究期間中、励ましご指導くださいました浦添市教育委員会の高江洲弘美指導主事、宮城幼稚園の幸地美佐子先生、本研究所の宮城むつみ所長、石川博基係長、比嘉清喜指導主事に深く感謝申し上げます。職員の皆様にもお世話になりました。又テーマ検討会などでさまざまな角度からご助言くださいました浦添市教育委員会の諸先生方にも心より感謝申し上げます。

最後に、本研究の機会を与えてくださいました。浦城幼稚園の池田博暁園長はじめ、いつも温かく声をかけて下さった諸先生方、半年間の研究をもに支えてくださった研究員の先生方に心より感謝申し上げます。

《主な参考・引用文献》

『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	文部科学省	2008
『保育内容「表現」』	黒川健一編	ミネルヴァ書房	2004
『保育内容「表現」論』	名須川知子・高橋敏之編著	ミネルヴァ書房	2006
『幼児の内面を育てる』	広岡キミエ 著	ひとなる書房	1987
『音楽リズム表現』	西久保礼造・土屋かつ子 共著	ぎょうせい	1982
『5歳児の保育資料』	安部恵 編著	ひかりのくに	2005